

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【岩槻小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	ドリルパーク等を繰り返し活用することで漢字や計算などの基礎的・基本的な技能が定着してきている。今後はドリルパークやスタディサプリ・スクールダッシュボード等で、個別に蓄積されたデータを効果的に活用することで個に応じた学習を一層充実させ基礎基本の定着を図り、確かな学力の基礎とする。
思考・判断・表現	来年度も引き続き算数をはじめとして各教科においてもこれまでの学習を基に自分の考えをまとめる活動を重視し、根拠を明確にし筋道を立てて説明できる児童を育成する。個別最適な学びによる知識・理解の定着と主体的で深い学びの実践により、確かな学力を身に付けさせ表現力の向上を図る。
主体的に学習に取り組む態度	全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合90%を維持していく。岩槻小スタンダードの作成によるアクティブラーニング型授業の実践、ICTを活用した学習履歴の蓄積、児童が主体のカリキュラムマネジメントの推進により「自分の考えを表現する楽しさを味わい、自ら学びに向かう岩小っ子の育成」に努める。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	・全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「知識・技能」において3pt向上させる。	⇒ スタディサプリ等を活用し、児童一人ひとりが個の課題等に合わせた学習ができるようにする。また漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組み基礎基本の定着を図る。スタディログ等を通して学習の定着度を確認し、「個別最適な学び」を推進していく。
思考・判断・表現	・全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「思考・表現・判断」において3pt向上させる。	⇒ 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の実践を基に、関連付けることや伝えることに重点を置いた授業を実践する。これを通して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を連動させ「深い学び」を実現し、思考力・判断力・表現力の向上を図る。
主体的に学習に取り組む態度	全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を85%以上にする。	⇒ 毎時間でメタ認知を促す振り返りを行い、「難しい問題も友達の考えを参考にしながら自分の答えを導き出すことができた」という価値付けをすることで、達成感を味わわせる。校内研修を通して、自分の考えを表現する楽しさを味わい、自ら学びに向かう岩小っ子の育成を目指し指導する。

<小6・中3> (4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」において、国語の漢字を正しく使うこと、算数の「数と計算」は市の平均と同程度または上回っている項目もあることから、概ね達成とする。	B
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現力」において、算数の「図形」「データ活用」については市の平均を大きく上回っている。国語においては「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」は市の平均と同程度上回っている。以上のことから、目標を概ね達成とする。	B
主体的に学習に取り組む態度	毎時間の振り返りを大切に、学習のフィードバックを行ってきた。さらにICTを効果的に活用し主体的な学びに取り組んできた。問題解決に向け自分から取り組んでいることが、児童のアンケートや発言から見て取れる。以上のことから概ね達成とする。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、国語・算数とも全国平均を下回った。国語では、原因と結果など、情報と情報の関係性を理解することに課題が見られる。算数では、全国平均を上回ったもの、下回ったものばらつきがあり、正答率が下回ったものとしては、図形の意味理解、百分率の割合の理解がある。
思考・判断・表現	国語では、目的に応じて必要な情報を見つけたり、相手の意図に応じて話を整理し、自分の考えをまとめたりすることに課題がある。算数では「数と計算」の領域の、式と場面を関連付けて読み取る問題に課題がある。国語では文章の読み取りを丁寧に扱い、算数では、図・式・言葉を関連付けて考えさせる活動を重視したい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目においては、肯定的な回答が97%で目標値を大きく上回った。引き続き、主体的な学びの実践に取り組んでいく。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語では、言語文化に関する事項が市平均より高く、漢字を文中で正しく使うことができる。一方、文中の主語と述語の関係を理解して話す・聞くことに課題がある。算数では、数直線を正しくとらえることができることは概ねできていた。しかし、はかりの針が示す重さの読み取りに課題がある。	小4	国語の漢字について、文中で正しく使うことができることが概ねできていた。しかし、「書くこと」の領域において、具体的な例を挙げて、わかりやすく説明することに課題がある。算数では、敷き詰めた図形から平行四辺形を見つけることが概ねできていた。数と計算領域の、減法と除法の混合した計算に課題がある。
小5	国語の「書くこと」について、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があり、表を用いた目的を考えることは市平均より大きく上回った。算数では、「数と計算」の1のあたりの大きさを求めることに除法が用いられていることの理解に課題がある。五角形の角の大きさの和を求める考えを求め七角形の角の大きさの和を求める正しい式を選ぶ問題は市平均より大きく上回った。	小6	国語の「書くこと」について、文書全体の構成や展開を考えることに課題がある。「話すこと・聞くこと」においては、話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言することが市の平均を上回った。算数では「数と計算」の基準量と比較量に着目し、式に合う問題を選ぶことに課題が見られた。円グラフの読み取りに関しては、市の平均を大きく上回った。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	・全国学力・学習状況調査の自校結果より国語・算数について、目標より下回ったため、さいたま市学習状況調査において、国語は1pt向上、算数は2pt向上と修正する。	⇒ R5全国学力・学習状況調査の結果から、「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用した反復・習熟に取り組み、理解を図る。
思考・判断・表現	・全国学力・学習状況調査の自校結果より国語・算数について、目標より下回ったため、さいたま市学習状況調査において、国語は1pt向上、算数は2pt向上と修正する。	⇒ R5全国学力・学習状況調査の結果から、自分の考えをまとめたり、必要な情報を関連付けて説明させたりする活動を重視し、アクティブラーニング型授業での練り上げや協働の場の充実を図り、個別最適な学びと協働的な学びの連動を意識して実践していく。
主体的に学習に取り組む態度	全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、目標を上回ったため、さいたま市学習状況調査において、90%以上と修正する。	⇒ 毎時間の振り返りを大切に、学習のフィードバックを行うとともに、引き続きICTを活用した主体的な学びに取り組んでいく。